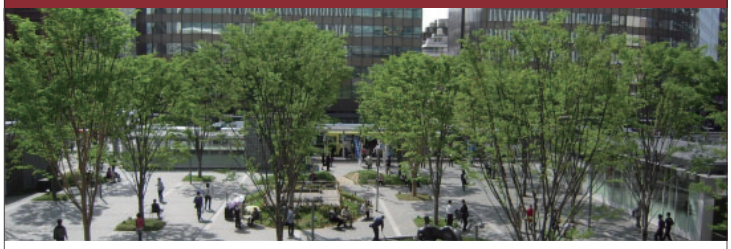
NPO法人 臨床応用科学
Clinical and Applied Science

Vascular Street Journal

Fukuoka University future initiative committee

座長：福岡大学　学長 朔　啓二郎

第６回 福岡大学将来構想研究会



講師 株式会社アービカルネット　代表取締役　新田　裕司氏

株式会社アービカルネット
新田 裕司氏

〔資格〕
技術士（建設部門／都市及び地方計画）
RLA（登録ランドスケープアーキテクト）
再開発プランナー
〔略歴〕
1958年　富山県生まれ
1983年　東京大学農学系大学院修士課程（緑地学）修了
1983年（株）日建設計入社
2005年（株）アービカルネット入社
2011年（株）アービカルネット代表取締役

弊社は福岡を拠点に、まちづくりに関わる計画・設計に携わってきました。
私が考える「豊かな街」とは、人々が安心して過ごせる屋外空間がそこかしこにあり、誇りを持てる風景があり、ゆったりとした時間が過ごせる街です。
街なかの広場、緑、道路、川といったオープンスペースは、豊かな街をつくるうえでとても重要な要素です。豊かな街が豊かな心をはぐくみ、そして豊かな心が、さらに豊かな街を作り出していきます。
こうしたオープンスペースの大切さについて、事例を紹介しながらお伝えしたいと思います。

令和５年
７年13日（木）
福岡大学院
福大メディカルホール

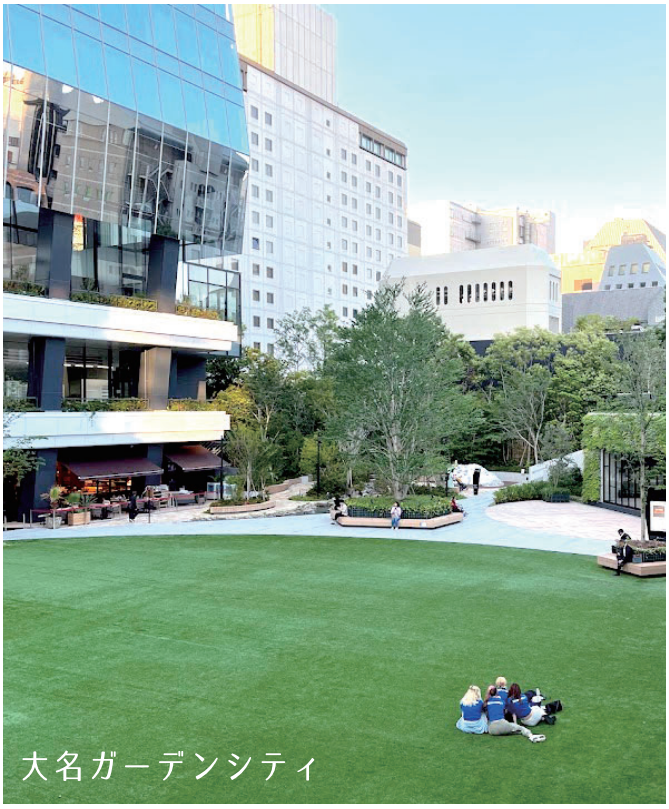
司会　朔 啓二郎　福岡大学長
14:00～14:40 予定
質疑応答含む

Fukuoka University

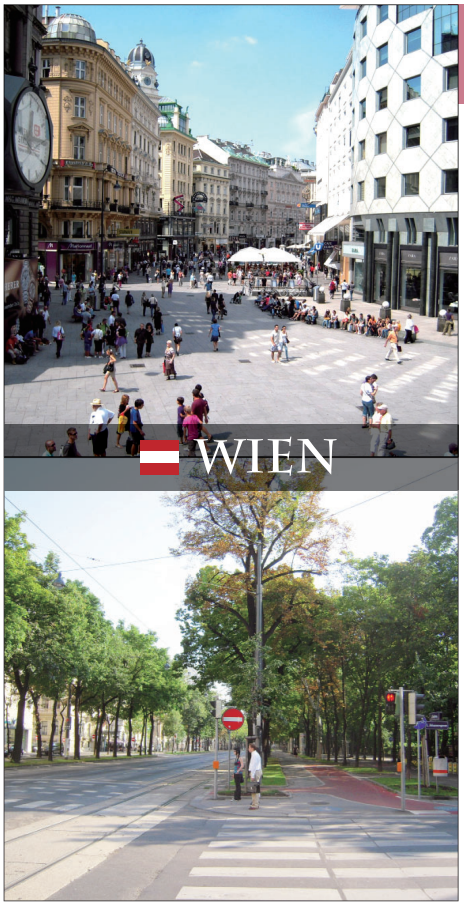
はじめに：
座長 福岡大学　学長　朔　啓二先生

今日は、株式会社アービカルネットの新田裕司社長さんに、「街を豊かにするオープンスペース」のお話をお伺いしたいと思います。今日のお話を参考にされて、福岡大学のキャンパスのあり方も皆さんで少し考えていただければ良いかと思っています。新田様ですが、富山県生まれです。寒いところですね。東京大学農学系から、日建設計に入社され、現在は株式会社アービカルネットの代表取締役をされてます。今を時めく、リッツカールトン福岡の外構は新田さんがやられたそうです。今日はそういった話もお伺いしながら、皆様の頭の中に福岡大学のキャンパス構想を少し考えていただいて、後で質問の時間も設けたいと思いますのでよろしくお願いたします。

新田社長：ご紹介いただきましたように、富山県生まれです。公園や広場の計画を行っている東大農学部の緑地学研究室で学びました。卒業後、日建設計という大手の建築設計事務所に就職し、都市計画やランドスケープ、つまり、広場・公園の設計を主に担当していました。その後福岡に参りまして、アービカルネットという会社に入社しました。ちょっとわかりにくい名前ですけども、英語でアービカルチャーという「都市文化」を意味する単語が由来です。これはアーバン「都市」という単語と、カルチャー「文化」という単語を一つにした言葉だそうで、このアービカルチャーという単語を元にして、都市の文化をネットワークで作ろうということでアービカルネットと名づけました。会社の仕事は、まちづくり、建築設計、ランドスケープの三本柱が主要な業務です。まちづくりについては、広域の将来構想等の提案を行います。建築については病院や老人ホーム等の設計を行っています。ランドスケープという分野では、博多駅前広場やリッツカールトンのホテルが入っている大名小学校の跡地の外回りの設計等をしています。


大名ガーデンシティ

今日は「街を豊かにするオープンスペース」というタイトルでお話しますが、オープンスペースとは街なかの公園や広場などの屋外空間のことです。



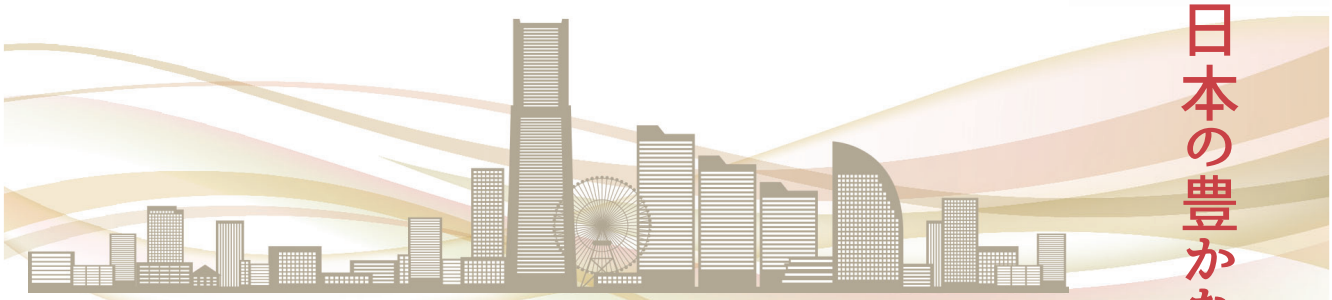
豊かな街って何？

「豊かな街」とはどんなものか、そして豊かな街を支えるオープンスペースにはどんなものがあるか、さらに豊かな街を生み出す力とは何だろうかといったことについて考えてみたいと思います。また、ご要望がございましたので福大のキャンパスについても最後に触れます。

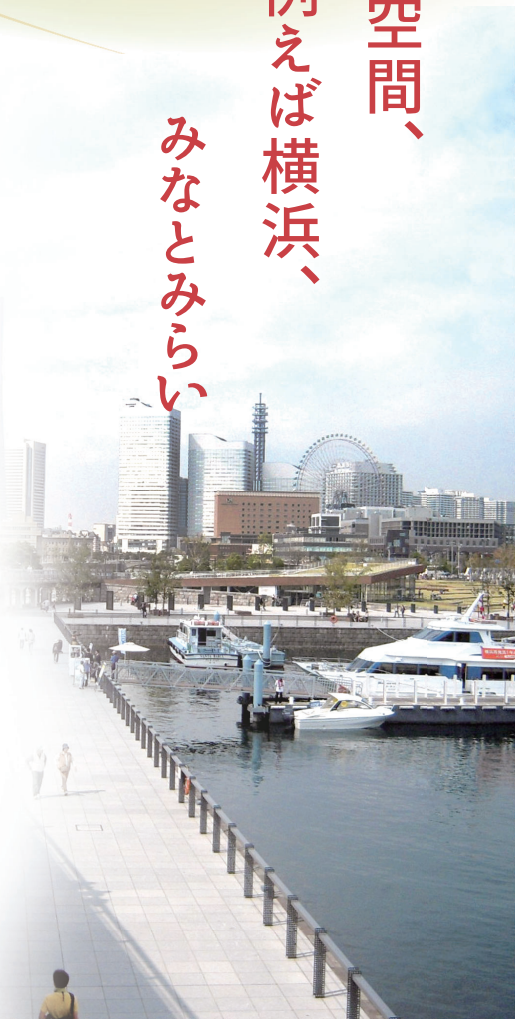
まず、私のイメージする豊かな街ですが、これはウィーンの写真です。統一された街並の中に車が入ってこない広い道路があり、人々がたくさん集まっている。この道の中に彫刻があったり、座るところがあって、人々が気ままに過ごすことができる、こういう楽しい街が豊かな街かなと思っています。次の写真もウィーンですが、まるで森のような道路です。車道、自転車道、路面電車、歩道、それぞれの交通ごとにレーンが分かれていて、みんな安全に走ったり歩いたりすることができる。しかもこれだけ緑がたくさんあるという例です。一方これは天神の写真ですが、先ほどのウィーンに比べると、人よりも車の方が偉くて、人は端っこを申し訳なさそうに歩いている感じがします。市内の別の場所では、たくさんの看板が道路沿いに並んでいて、しかも原色がたくさん使われている。先ほどのウィーンの緑豊かな街とは真逆の世界と

Editor-in-Chief: Shin-ichiro Miura, MD, PhD, FACP, FACC

いう感じがします。さらにこれは街路樹が極端に切り詰められている事例です。街路樹は葉っぱが落ちると近所の人が「迷惑だから何とかしてくれ」とよく言われるようで、と言っても、行政もそんなにお金をかけられない、維持ができないということで葉っぱが二度と出ないぐらい剪定をしてしまう。結局、丸太が並んでいるような、奇妙な風景になってしまっています。豊かな街を作っていこうという気持ちよりも、経済的なところのみに頭がいっているような、そんな寂しい光景が日本のあちらこちらで見られます。私がイメージする「豊かな街」は、人々が安心して過ごせるような屋外の空間があちらこちらにある街、誇りを持てる風景がある街、ゆったりとした時間が過ごせる街であり、そういった街を作っていきたいと常に思っています。ヨーロッパだとわりと普通にどこにでもあるような豊かな風景が、日本だとどうしてできないのだろうかと会社に入ってからずっと考えていますが、未だになぜなのかよくわかりません。



日本の豊かな空間、例えば横浜、みなとみらい



ただ、日本でも豊かな空間は、あちらこちらにできています。そういった例をこれからご紹介したいと思います。これは横浜の「みなとみらい」です。日本の代表的な都市計画かと思います。ここまでになるのにだいたい 40 年くらいかかっていると思います。これを構想したのは田村明さんという横浜市役所の職員だった方です。この方が横浜の都市景観を真剣に考えられて、例えば、国が横浜の街の真ん中に高速道路を通そうとしたのですが、街の真ん中を高架で通るようなことをされたら横浜の街がめちゃくちゃになる。それで、この田村さんが立ち上がって、高速道路のルートを変えさせ、一部は地下にした。国が一旦決めたものを市役所がひっくり返すというのは、当時でも、とても考えられないことだったそうですが、それでも信念を持ってやり遂げた。それくらいのビジョンが必要なんだろうと思います。この田村さんのチームが横浜の海岸沿いを、魅力的にしていくためのプランを作ったのが 1982 年頃です。現在の横浜の海岸沿いは、ほぼこの通りにできています。40 年ぐらいかけて地道に創ってきたのです。時間をかけることも大事なことなんですね。これが今の横浜の観光パンフレットですが、港の見える丘公園、山下公園、赤レンガ倉庫、みなとみらいなどをずっと歩いていけるようになっています。歩行者の道が整備され、公園や広場が海沿いに連続して、とても歩くのが楽しい、そういう街ができています。象の鼻パークという公園の近くにある通路は、

元々は貨物の線路だったところです。これを人が歩く綺麗な歩道にしたのです。私も昔の 80 年代の横浜をなんとなく覚えていますけども、とても汚い感じでした。貨物の線路があったり、港もあまりきれいな場所ではなかったように思いますけども、今では公園もできて非常に楽しい場所になっています。これは 1 年、2 年で出来るものではなくて、30 年、40 年かけてやっと全貌が見えてくるというもので、地道にぶれずに何十年もかけてやっていくというのも、大事なことだと思います。

福岡大学のキャンパススペースについて一言

福大キャンパスについてコメントします。先日、福大のキャンパスをちょっと歩いて回りました。その時撮った写真をいくつかご紹介したいと思います。正門から入って少し歩くと非常にきれいな芝生の広場になっていて、とても良いなと思います。事前にいただいた資料だと、正門からずっとこういう景観が続くようになっていましたので、そうなれば福岡大学の顔になるような、良い場所ができるなと思って見ていました。そこからちょっと中に入るとわりと広い空間がありますが、ここに入るとコンクリートの階段がずっと並んでいたり、黄色い斜線 (駐車禁止のマーク) があったりで、どういう場所なのかよくわからない感じがします。ただ、その階段の上を登ってみると、並木のきれいな場所があります。奥のほうに行くとずいぶん古いですけど座る場所があったりして、それぞれきれいな場所はありますが、全体を通してみるとあまり統一が取れていないような感じがしました。芝生の斜面もあまり使われてないように思えますね。全体で見ると広い広場ですけども、バラバラに作られているのであまりそういう広さを感じないような気がし

Editor-in-Chief: Shin-ichiro Miura, MD, PhD, FACP, FACC

ます。大学のキャンパスはどこも少しずつ作ってまた作り、少し改修してまた作りというのを多分繰り返されているので、こういう風になっていくのは仕方ないだろうなと思いますが、ちょっともったいない気がします。建物もわりとそんな感じがあります。建物一つ一つはすごく力の入ったデザインがされていますが、全体を見るとあまり統一感が感じられません。でもそれも少しずつ作っていくので、ある程度仕方ないことですし、建物はいったん作ってしまうと何十年も使っていかないといけないのですが、広場は建物を作るほどのお金は掛けなくても変えることができます。広場を変えていくことでかなりイメージの違う場所となり、イメージアップができるのではないかと思います。九州産業大学の例ですが、福大と同じような斜面がギザギザとしたデザインの芝生になっていて、真ん中が大きな広場になっている。こういう作り方で広場全体の大きさが活かされてかなり広々とした感じになり、印象的な場所にすることもできるという事例です。それから、これは関東の大学の例ですが、ベンチと椅子があって自由に座れる。上の方には木がたくさんあって木陰ができている。このようにちょっと休み時間に憩えるような屋外の空間がそこかしこにあると良いかなと思います。それから、少し奥の方に行くと池がありますが、この池の周りもあまり活用されていない感じがします。この写真は事例としては豪華すぎますが、東京ミッドタウンの横にある公園です。元々は大名庭園だったものを、東京ミッドタウンの建設に併せて整備し直したものです。ここまで大きな池ではないですし、こんなに立派な建物を作ることも難しいと思いますが、今ある水や池を活かして良い場所を作れたらいいのではないかと思います。これはちょっと古い写真ですが、ワシントンのまち中の公園です。これも真ん中に大きな池があって全体としては非常に開放的ですが、植栽がうまく配置されていて、プライベートな雰囲気の場所がたくさんあります。そういったところで人が休んでいる。ちょっとここに来て休んでみたいなという場所が作れたらいいなと思います。さらに、道路を渡ったところに食堂と駐輪場がありましたが、ここから見るとわかりませんが、ずっと奥へ行くと綺麗な池があります。この池は大学の敷地ではないと思いますが、せっかくの池が大学のキャンパスからは全然見えない

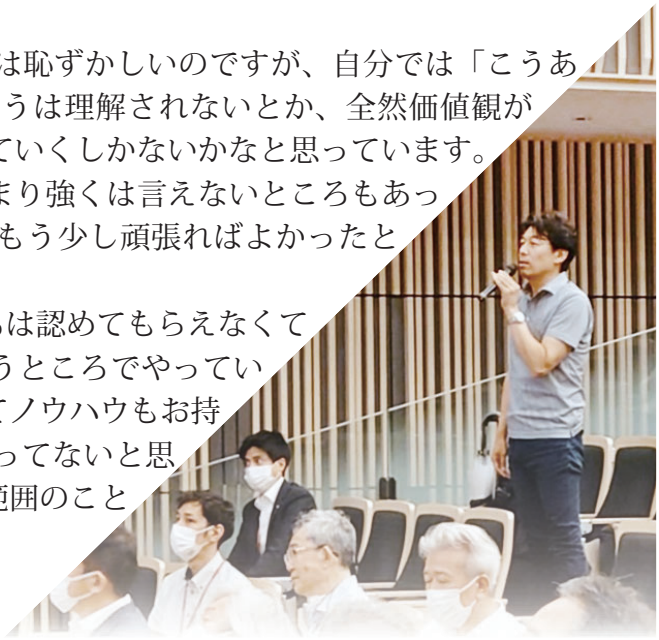
というのも惜しいなと思いました。例えば、食堂から池が見下ろせるようになっているとか、ちょっとここを散策してみようかという気になるような、大学のキャンパスと一体的に池も取り込んでいければ良いかなと思いました。これはアメリカのコーネル大学ですが、ここはキャンパスの中に川があったり滝があったりします。自然の中のキャンパスということで非常にイメージが高い大学だと思います。福岡大学もここまではいかないにしても、緑が豊かなキャンパスの中で楽しい場所がいろいろあって、そういうところで学業に励むことができるというイメージができてきたらいいかなと感じました。以上、風景の写真をずっとお見せしただけという感じですが、ちょっとでも美しい街、豊かな街、楽しい街を作るというところに今後も関わっていければいいなと思っています。ありがとうございました。

福岡大学構内

新田社長に質問

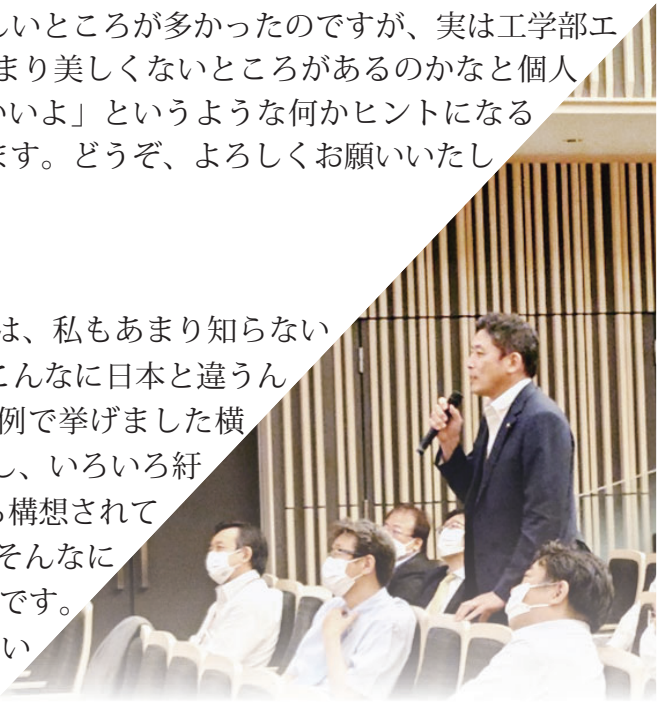
朔学長：新田社長、本当にありがとうございました。福岡大学のキャンパスまでいろいろ探索していただいて、まったく僕はそれは知らなかったのですけども、色々な提案を頂いたと思っています。福岡大学の全部の敷地が paypay ドーム 45 個分です。もう少し統一感があった方が豊かな街になって、カーボンニュートラルも推進されやすいのではないかと強く感じました。緑があって豊かなまちづくり、豊かな大学づくりというのは、我々の使命じゃないかなとそんな感じがいたします。せっかくの機会ですので、質問をどうぞ。

柴田教授：工学部の柴田でございます。
私の研究室もまち中のオープンスペースや公園づくりの設計に携わったりする経験も多くて、ちょっと前ですけど警固公園の設計に携わったり、最近は西公園の再整備や明治通り、天神ビックバンで新しく変わる天神交差点の設計とか、そういうプロジェクトに関係しています。そこで思うのは、街中になればなるほどたくさんの関係者が増えて、お役所だったり企業だったり警察だったり、色々な関係との調整というか、意見交換が非常に大変だと思います。先ほど講演の中で「ビジョンと共有」という言葉があったと思いますけど、新田さんのお仕事の中で「ビジョンと共有」で心がけていることとか、何か苦労話とかあれば教えていただきたいなと思います。



新田社長：柴田先生の前でこういう話をするのは恥ずかしいのですが、自分では「こうあるべきだ」と思ってお話をしてもなかなか向こうは理解されないとか、全然価値観が違うことはよくあって、そこは根気強く話をしていくしかないかなと思っています。でも、どうしても仕事をいただく立場なのであまり強くは言えないところもあったり、こちらが引き下がる場面も多かったり、もう少し頑張ればよかったと思ったり、そういうことはよくありますね。
それでも何度もそういう話を繰り返して、100％は認めてもらえなくても、自分の思いが少しでも残ればいいかなというところでやっています。多分、柴田先生の方が色々経験されていてノウハウもお持ちではないかと思いますけが、私はそこまで至ってないと思います。その時々で苦労しながら何とかできる範囲のことをやっているという感じと思います。

辰巳工学部長：工学部長の辰巳でございます。私、専門は土木の都市計画、交通計画などです。天神ビックバンでは建て替えが今進んでいますけども、それらのまちづくりが、ガイドラインに沿って設計がされているかのアドバイザーをやったりとか、あるいは地権者同士の合意形成のまちづくり協議委員会の委員長をやったりしています。先生にお伺いしたいのは、ビジョンの継承についてです。天神の場合は比較的短期でビックバンにより全部やりますから、まちづくりガイドラインは同じ物が活かされていくのですけども、これが長期になってくると、例えば首長が替わる場合、前政権のやり方は否定されがちですから、そこでデザインや方向性が変わったりすることがあります。そういうことでなかなか当初のデザインガイドラインが継承されずに、長期間で見るとちぐはぐになってしまうという例がたくさんあると思うのです。大学の場合も先ほどお話がありましたが、一つ一つ時間がかかりますので、同じような体質なのかなと思います。その辺で海外の事例とかで何か長期間にわたってデザインがきちんと継承されていく良い仕組みとか、ヒントがあれば教えていただきたいと思います。もう１点は、先生は学内のキャンパスを見られたということですが、先ほど出た写真は美しいところが多かったのですが、実は工学部エリアにはちょっとデザイン的に問題があり、あまり美しくないところがあるのかなと個人的に思っていますけど、その辺、「こうすればいいよ」というような何かヒントになるようなものがあれば教えていただきたいと思います。どうぞ、よろしくお願いいたします。



新田社長：海外でどうやっているかということは、私もあまり知らないですし、本当にヨーロッパの街とか、どうしてこんなに日本と違うんだろうと思いますが、よくわからないです。事例で挙げました横浜にしても、当然、市長さんも代わっていますし、いろいろ紆余曲折はあったはずですが、結果としては元から構想されていたものが出来上がっているので、それもなぜそんなにうまく出来たのだろうとか、私も知りたいぐらいです。
福岡大学のキャンパスもいろいろ問題もあるというお話については、たとえば薬草園のあたりは

すごく緑が深くて、ただあまり手が入ってないように見えたのですが、良い木は残しながら、下をきれいにするとか、枝を払っただけで見通しが良くなるとか、散策路を作ってベンチを置くとか、そういうちょっとしたところからでもいいですね。今回の写真だけではなくてわりとくまなく歩いてみたのですが、ポテンシャルはあると思うので、少しずつ手を加えれば楽しい空間ができるのではないかと感じました。

◆ President Saku's Commentary ◆

現在の福岡大学は、正門から入ったら芝生があって、それは大変人気があります。突き当りを左に曲がるとコンクリートの階段が左の方にあって、駐車禁止のマークが、でかでかとあります。あの辺はもう少し考えた方がいいのではないかと思いました。今日のお話を聞いて、「ちょっと」、手を入れられるんじゃないかと。今日はいろいろなまちづくりのコンセプトとか、豊かな街のお話等、いまからの福岡大学のキャンパス計画に活かせるのではないかと思いました。新田社長とは、昨日一緒にお酒飲んでいましたが、福岡大学を探索したという情報は一切言われなかったので、今日はびっくりしました。こんなに調べていただいてたとは。薬草園まで散策されたとのことでした。多分、今日お話を聞かれた皆様のキャンパスに対する考え方が変わったのではないでしょうか。先ほどちょっとお話しましたけど、西新病院が移転するのですが、そこでのコンセプトは健康な街づくりを推進する、住むだけで健康になる街づくりです。そのようなビジョンやコンセプトがキャンパスにも必要ですね。

Editor-in-Chief: Shin-ichiro Miura, MD, PhD, FACP, FACC